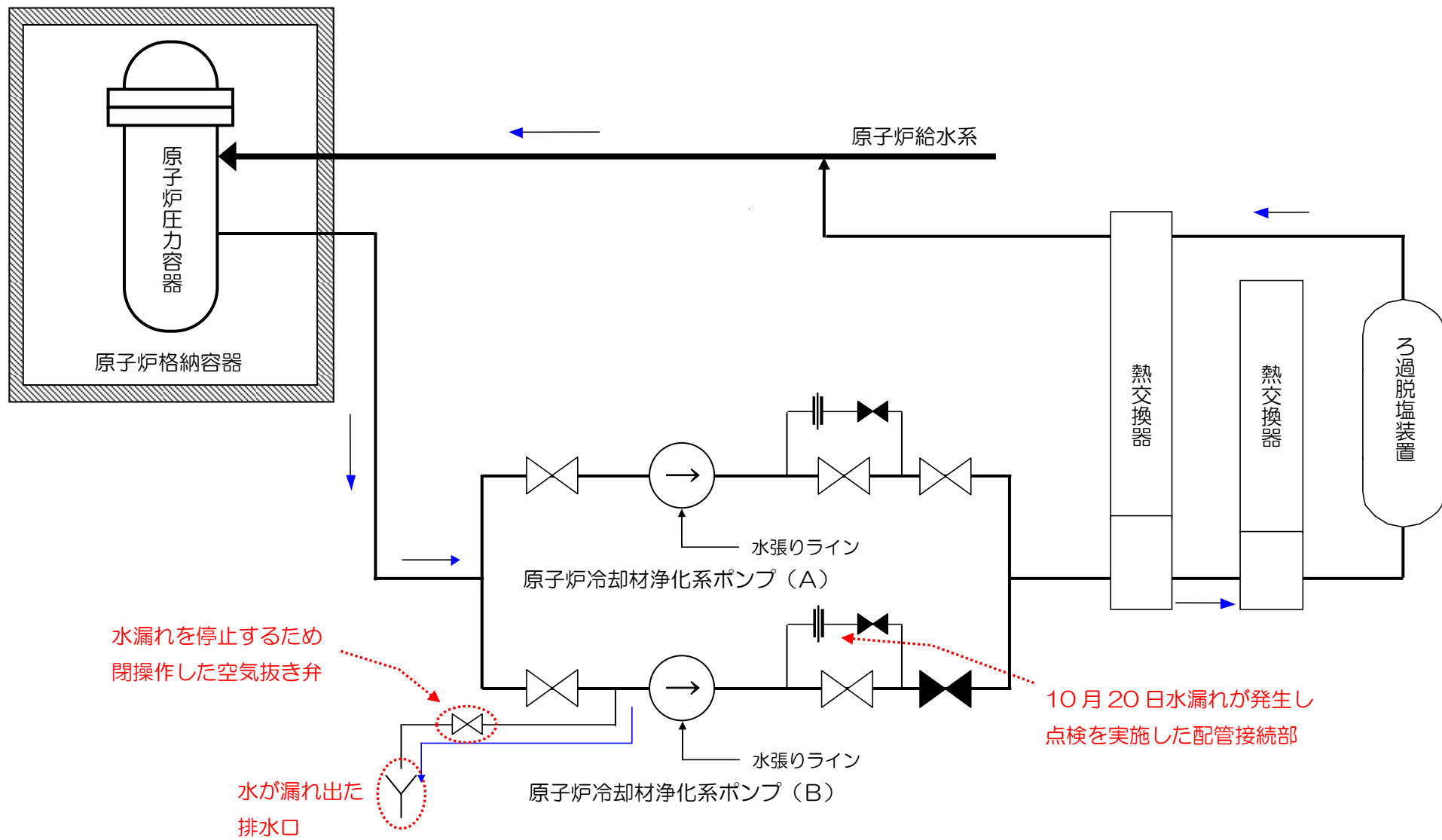


区分：Ⅲ

号機	1号機	
件名	原子炉冷却材浄化系ポンプ（B）室（管理区域）における水漏れについて	
不適合の概要	<p>定格熱出力一定運転中の1号機において、平成22年11月9日午後3時55分頃、原子炉建屋地下4階の原子炉冷却材浄化系*¹ポンプ（B）室（管理区域）で10月20日に発生した配管接続部からの水漏れ（10月21日お知らせ済み）の復旧作業を行い、配管への水張り作業を行っていたところ、水張り時に使用する空気抜き用配管につながる排水口から水（一部蒸気化）が漏れ出て、ポンプ室に漏えいしました。</p> <p>その後、配管への水張り作業のために開いていた空気抜き用配管の弁を閉めたことにより、水漏れは停止しました。</p> <p>今回の事象により、漏れ出た水（一部蒸気化）が再び凝縮し、ポンプ室床面に溜まりましたが、水は漏えいの拡大を防止するための堰内にとどまっており、堰内の床面に溜まっていた水の量は約9リットル、放射エネルギーは約1.1×10^7ベクレル*²でした。</p> <p>この作業に従事していた当社社員6名および協力企業作業員4名について、体内に微量な放射性物質が取り込まれた可能性*³があったことから、ホールボディカウンター*⁴による測定を実施し、体内への取り込みはないことを確認しております。</p> <p>なお、排気筒モニタや発電所敷地境界に設置され空間線量率を測定するモニタリングポスト、およびダスト放射線モニタ*⁵の指示値は通常の変動の範囲内であり、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p style="text-align: right;">以上</p> <p>* 1 原子炉冷却材浄化系 原子炉水中の不純物を除去し水質を維持するための浄化装置。</p> <p>* 2 放射エネルギーは約1.1×10^7ベクレル 今回の水漏れは、漏えいの拡大を防止するための堰内にとどまっており、法令による報告対象となる事象ではありません。</p> <p>* 3 放射性物質が取り込まれた可能性 内部放射能測定の結果を、過去の平常時の測定平均値と比べて平均値から統計的な変動に基づくばらつき幅を超えた場合等に、体内への放射性物質の取り込みの可能性があると判断する。</p> <p>* 4 ホールボディカウンター 体内にある放射性物質を体外から測定する放射能測定装置。</p> <p>* 5 ダスト放射線モニタ 発電所敷地境界近傍で空気中の塵を連続的に集塵し、含まれている放射能を測定している計測器。</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<安全上の重要度> 安全上重要な機器等 / その他設備	<損傷の程度> <input type="checkbox"/> 法令報告要 <input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要 <input type="checkbox"/> 調査・検討中
対応状況	床面に漏れた水は、昨日、拭き取りによる清掃を実施いたしました。 今後、水漏れの原因について調査いたします。	



柏崎刈羽原子力発電所1号機 原子炉冷却材浄化系概略図

